

森林環境教育の活動とは…

「森林の中での～」 「森林についての～」 「森林のための～」 の3つが一連のプログラムとして考えられていることが大切です。

事前学習

森の中での活動について話し合い、行動を計画する。調べ学習する。安全対策を講じる。

体験

要素を組み合わせて展開すると総合的な学習になる。経験豊かな地元の方の協力を得ると社会体験にもなる。

事後学習

体験をふりかえり、気づきと課題を整理する。調べ学習する。考えをまとめ、表現する。

要素

1

森を知る、体感する

ねらい

森の多様性や自然の仕組みに触れる

森で工作の材料集め / 小さな森をつくる / 森の樹の四季(観察ノート) / 森の遊び、森のゲーム / 樹や葉の形はどう違う? / 森の花、実、生きものの関係調べなど

要素

2

森の恵みを利用する

ねらい

森と人とのかわりを知る

木や森の材料でものづくり(つる細工、紙すき、草木染め、自然工作、楽器、葉しおりなど) / 薪をつくる、炭を焼く / 山菜、きのこなどを育てる、収穫する / 森の恵みで料理をつくるなど

要素

3

森を育てる

ねらい

育てる作業を体験し、その意味を知る(作業で出た材料の利用法も考える)

苗木を育てる / 苗木を植える / 下草刈り / つる切り / 除伐 / 間伐 / 枝打ち / 落葉、落ち枝を集める / 森の育て方を調べる / 森を育てる人を取材 / 森を育てた歴史調べなど

要素

4

生きる力を育む

ねらい

人間が生きる本質的な力を育む

計画を立てる / 手や体を使う / 五感を使う / 地図を読む / 野外生活をする / 互いに助け合う / 文化や生活の知恵を学ぶ / ものをつくる / 山の自然にふれるなど

体験の要素